

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
12	川崎市立浅田小学校	野澤 聡

学校教育目標	今年度の重点目標
浅田のまちで、やさしく、かしこく、たくましく生きる子どもの育成 ～子どもに寄り添い、子どもの側に立つて行う浅田の教育活動～	<ul style="list-style-type: none"> ○確かな学力の育成と、きめ細やかな指導の充実 ○人権尊重教育の精神の徹底 ○細やかな児童支援の徹底 ○教職員の資質向上と協働体制による教育活動の推進 ○開かれた学校づくり、家庭・地域との連携の推進

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 豊かな人間性 (児童指導・児童支援)	あいさつ運動など児童の自主的な活動を励行し、誰に対しても思いやりをもって接するなどの道徳心を涵養する。	「人が困っているのを見たとき進んで助ける」ではどの学年も8割以上の児童が肯定的に答え、やさしく関わろうとする態度が全校的に見られる。	児童によるあいさつ運動を継続できるよう場や機会を工夫し、今後も児童自身でよい行いを褒め合う学校風土を培う。
2 確かな学力 (教育課程・学習指導)	学習タイム等を活用し、個に応じた課題やめあてに合った自学の態度を育み、進んで学習に取り組む力を育てる。	「課題を見つけて進んで学ぶ」は、高学年で8割前後まで下降傾向が見られ、高学年ほど個の多様性に応じた学びを保障する工夫が必要になってきている。	学習タイム等の活用を通して、反復練習によるスキルの向上だけでなく、個の多様性に応じた学びを支援する工夫を進める。
3 汎用的な資質・能力 (校内研究)	授業での話し合いを軸に、他者との対話を通して多様な見方をしたり、自らの考えを深めたりする力を育む。	「あたたかい聞き方・やさしい話し方」について意識して取り組む姿勢が育つ一方、「話題をつなげて発言する」は7割を下回る学年も見られる。	汎用的資質である「言語力」「思考力」「実践力」の各内容を明確にし、低中高各学年の発達段階に応じた目標を掲げ、具体的な指導を工夫する。
4 健康・体力の増進	基本的な生活習慣を大事にし、安全に気をつけて運動に親しんだり、めあてに向かってねばり強く取り組んだりする資質を育む。	ねばり強く取り組む姿勢は昨年度より改善してきているが、「体を動かして外で遊ぶ」は高学年になると8割を下回る傾向が見られ、課題である。	今年度より4年振りに縦割り活動を再開したことを生かし、次年度、異学年交流などをさらに工夫し、運動に親しむ機会や場を工夫する。
5 学びケアステーション (教育相談・教育支援) の推進	一人一人の様々なニーズに応じ、学習の進度に応じた個別学習体制や、児童の個性等に寄り添った個別支援体制を整える。	1年保護者には学校の相談支援体制について情報不足が窺えた。高学年では多様化する児童ニーズに対応が追いついていない面がある。	「学びケアステーション」のあり方を含め、多様な児童のニーズに対応する全校的な支援システムの改善に努める。
6 開かれた学校づくり (家庭・地域との連携)	「寺子屋あさだ」との連携や、創立七十周年記念事業で制作した「ふるさと浅田かるた」の活用を通して、ふるさと浅田を愛する心情を育む。	中休みに実施した「ふるさと浅田かるた」大会や、かるたビンゴによる異学年交流を通して、浅田のまちに対する興味や関心を盛り上げることができた。	今後も「寺子屋あさだ」と連携しながら、児童の発想を取り入れながら「ふるさと浅田かるた」を活用した取り組みを実施する。
7 GIGAスクールの推進 (校内研修)	一人一台のGIGA端末を活用した学習や授業について研修を進め、授業改善を進める。	GIGA端末を活用した学習や授業が日常化してきているが、家庭学習での活用はまだ限定的である。	GIGA端末を活用した授業改善を進めつつ、高学年を中心に家庭学習での端末活用と授業との連携を工夫し、いっそうの活用を進める。
8 教育環境整備	月に一度の安全点検をもとに、教育環境・学習環境の改善を図る。	児童用トイレの数が少ない、排水パイプが狭く詰まりやすい、校舎脇などの整理が行き届いていないなど課題が見られる。	職員作業による環境改善とともに、教育環境整備推進室との連携を密にし、よりよい教育環境・学習環境を実現する。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> ・地域で子どもたちに声をかけると、あいさつを返してくれたりやさしく応じてくれたりする。児童によるあいさつ運動を今後も町全体で応援したい。 ・スマイルタイム(縦割り活動)が復活してよかった。授業では得られない楽しさや学年を越えたつながりが体験できるので、高学年の人たちは頑張してほしい ・6年生の子どもたちの報告は、自分たちの授業をよくしよう、浅田小学校をいい学校にしようとする意欲にあふれていて頼もしかった。 	<p>3年間の校内研究の取組によって、新学習指導要領がめざす汎用的な資質・能力の育成に向けて、各学年ごとに具体的な手立てや実践的な授業が積み上がってきた。児童も授業で自然に「あたたかい聞き方・やさしい話し方」で話し合う様子が見られるようになってきた。3年間の成果を踏まえて「言語力」「思考力」「実践力」の各内容について6年間を見通した目標を立て、各学年に応じた具体的な指導を明確にして、全校で効果的に取り組んでいきたい。児童ニーズの多様化に応じた学びケアステーション体制を見直し、個に応じた学びの支援をいっそう進めていきたい。また、職員作業日をとるなどして学校の安全環境整備に努めていきたい。</p>